

中学生の「税についての作文」

大川市教育委員会賞

アトピー性皮膚炎と税金の支え

大川市立大川桐英中学校

三年 川 原 愛 未

私は生まれた時からアトピー性皮膚炎があります。季節の変わり目やストレスがたまったときに、肌がかゆくなり、赤くたれてしまいます。特にひどい時は、眠れない夜が続くこともありました。そんなとき、いつも皮膚科の先生に相談して、薬をもらい、少しずつ症状が落ち着いていきました。何度も通院しているうちに、私はあることに気がつきました。それは、病院でかかる費用のわりに、実際に親が払っている金額が思ったより少ないということです。母や父に聞いてみると、

「保険が使えるから、医療費の3割だけ払っているんだよ。」と教えてくれました。そして、その保険制度は、税金で支えられていると知りました。

日本では「国民皆保険制度」があり、誰もが医療を受けられる仕組みになっています。私たちは、病気やけがをしたときに安心して病院に行くことができますが、それは健康保険と税金によって支えられているのです。もし税金がなければ、

アトピーの薬代や診察代は今よりずっと高くなっていたかもしれません。

アトピー性皮膚炎は長く付き合っていかなければならない病気です。私も月二回は皮膚科に通い、保湿剤やかゆみを抑える薬をもらっています。その費用は一年で見ると結構な額になります。けれども、「医療費控除」という制度を使えば、年間にかかった医療費が一定額を超えたときに、税金の一部が戻ってくる場合があります。このような制度も、税金によって成り立っています。

税金は、道路や学校などの設備に使われるだけではなく、医療、福祉、教育といった私たちの生活に欠かせないところに使われています。私は今まで、税金についてあまり考えたことがありませんでしたが、自分の病気のことを通じて、税金の大切さを実感しました。

これから大人になって働くようになった時、私も税金を納める立場になります。そのときには、

「自分の税金が誰かの医療や生活の支えになる。」

と思えば、きつと納得して支払うことができると思います。

アトピー性皮膚炎と向き合いながら生活する私は、これからも病院や薬の力を借りることになります。そのたびに、支えてくれている制度や税金のありがたさを忘れずにいたいです。そして、社会の一員として、自分も誰かの役に立てる人になりたいと思います。